

# 我が園のつみき

## 京都日彰幼稚園

### 従來のつみき

は其の形式大きが一定の煉瓦大であつて變化なく單純である。従つて非實際的で今一つ思ひ切つた遊びが出来ない兒童は一定の大きさのものを積み重ねることに依つて大きくも長くも、之を工夫使用するけれども、又一方には、より大きい、より小さい材料を要求する。これは實際日常彼等に接すれば直ちに知られることであり當然の要求なのである。かゝる所から考案したものが、

### 我が園のつみき

である。其の大きは日常生活に使用せらるゝ曲尺によりて次のやうにこしらへたのである。

長さの單位を五寸とし、幅を二寸五分とし、厚さを一寸二分五厘としたる長方體。

上のものゝ二倍の長さのもの、(一尺)、三倍の長さのもの(一尺五寸)、四倍の長さのもの(二尺)、其

の他各邊五寸の立方體を對角線によりて、二等分して三角柱をなせるもの。

又、五寸立方體を邊に平行して、四等分せる正方形のもの。

以上の形のものゝ各數は次の如し。

五寸のもの	五十個
一尺のもの	五十個
一尺五寸のもの	三十個
二尺のもの	二十五個
三角のもの	二十八個
正方形	三十個

而して以上を全部積み上げると二尺立方となる。

### 其の價值

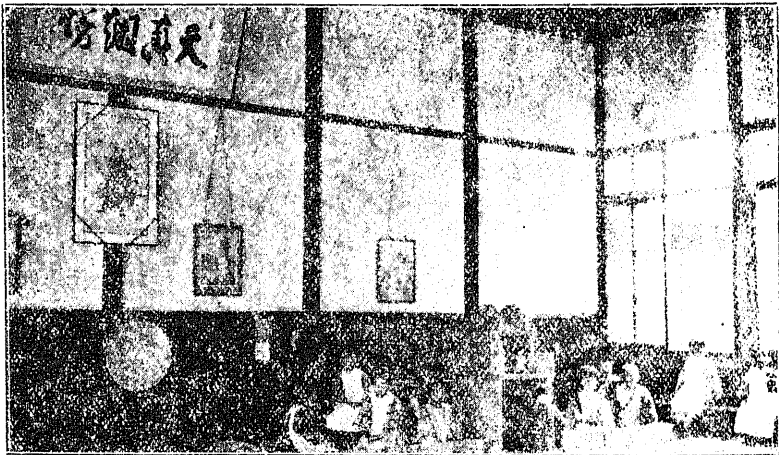
これの保育上の價值を述べて見ると。

(1)形式、大きに變化あるを以て幼兒の心理に適すること。(2)材料大なるを以て幼兒の實生活に活用せられ易きこと。(3)全身的活動を要する故身體的陶冶大なること。(4)適所適材を用ひ應用創造教育に資すること。

これを過去一々年の保育経験にみるに最初は不用意なる大人の心から年長の児に使用せしめやうとした所が何時の間にか他のものも仲間入りして今では全部の園児が使用してゐる。

成る可く彼等の自由意志による考へで最初から是れを提供しただけで保母は傍觀して居て單に暗示獎勵を與ふるようにして居る。最初に出來たのは電車であつた次に汽車や飛行機が出來た、繪を描かせてもやはり活動性のものを表すことが多いが、こゝにはそれを立體形として構成したのである。やがて室内一ぱいに軌道をこしらへて其の上を滑走だといつて腹這ひになつて三間も四間も押して行く。これを何回も何回も繰り返す。又鳥居を幾つもならべて立て、稻荷神社だといつてその下をくゞつて居る、家も出來る、西洋館、動物園、活動寫眞館等も作る。こゝに掲ぐる寫眞は其の一つで、彼等稱して人形の家と名づけて居る。机や腰掛を造つては腰を掛けて居る、橋をかけて其の上を通るなど、敷へ上げれば限りはない。從來のものに比較して彼等の態度がすっかり異つて來た。朝來ると直ぐに數人が積木にかゝると、共同作業も行はれ、分業も自然的に行はれる。暫時は熱心に遊んでゐて殆ど干渉は入らない、やがて嫌やになるとは他の遊戲に移る、又他のものが出て積木をする。互に批評も仕合つてゐる。時には前の組の仕掛けの仕事の後から來たものが仕上げるなど、今更その價值など言つて説明するまでもない。

今其の室が何かのことで入用と言ふ場合には皆よつて一隅に取りかたづけられる。積み重ねる時にも形の異なるものを立方體に形よく積みてきまりよく整理する一つの立派な仕事が出来た。尙今後一層の工夫を以て更によいものにしたと考へてゐるのである。



家の形入るたみ積の兒幼